

9 青少年補導状況

(単位:人)

区分	総数	怠学	飲酒	喫煙	深夜徘徊	暴走行為	不良交友	その他
小学生	-	-	-	-	-	-	-	-
中学生	38(5)	4	-	8	25(5)	-	-	1
高校生	103(17)	-	1	35(3)	67(14)	-	-	-
大学生	-	-	-	-	-	-	-	-
その他学生	-	-	-	-	-	-	-	-
有職者	24(3)	-	-	14(1)	10(2)	-	-	-
無職者	29(8)	-	-	12(2)	17(6)	-	-	-

注1)平成24年次常総警察署における常総市管内

資料:常総警察署

注2) ()内は女子で、内数

《10万人当たり火災出火件数》(H22)

1 五霞町(95.64件) 2 神栖市(93.89件) 3 茨城町(84.03件) 4 鹿嶋市(81.70件) 5 行方市(77.11件)
 …………… 27 常総市(35.21件) ……… 43 河内町(19.66件) 44 守谷市(17.61件)

《千人当たり交通事故発生件数》(H23)

1 水戸市(7.77件) 2 那珂市(7.41件) 3 土浦市(7.13件) 4 ひたちなか市(5.91件) 5 下妻市(5.68件)
 …………… 28 坂東市(4.07件) ……… 43 美浦村(2.28件) 44 利根町(1.39件)

茨城県「市町村早わかり」より

犯罪件数は2002年をピークに減少

2010年に我が国で発生した犯罪件数(交通事故関係を除く刑法犯認知件数)は159万件で、前年よりも6.9%減少している。趨勢的には1997年頃から急激に犯罪件数は増え、2002年には戦後最高を記録したが、03年以降は減少傾向にある。

犯罪の内訳は、その大半は窃盗犯で、犯罪全体の76.5%を占めている。

刑法犯少年は減少、特別法犯少年は増加

2010年の少年(14~19歳)の刑法犯(交通関係業務過失犯を除く)の検挙人数は85,846人、同年齢層の人口千人に対する比率では11.8%あった。これを成人(20歳以上)刑法犯の対応する人口比(2.3)と比較すると約5.1倍になるが、刑法犯少年の検挙人数は減少を続けている。窃盗犯は61.1%と圧倒的に多い。また、触法少年(刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年)の10年の補導人員(刑法)は17,727人で前年比1.7%の減少と、少年の刑法犯罪は全体的に減少している。

特別法(軽罪法、毒物及び劇物取締法、大麻取締法など)に違反した少年の検挙人数は、概ね減少傾向であったが、07年以降増加している。

資料：(財)日本統計協会「統計でみる日本2012」より